緑の相談所だより

—６４号—

２０００．６．１　発行　　編集：財団法人旭川市公園緑地協会旭川市緑の相談所

講習会のお知らせ

山野草の育て方

日　時　６月１１日(日)
午後１時半～３時半

講　師　北海道山草趣味の会
会長　村田　悠治さん

定　員　５０名　無　料

同時開催　１０(土)、１１(日)　山草展示会
当所ロビーにて

ハーブ栽培の基礎知識

種子の特性、育苗、栽培管理

日　時　６月２５日(日)
午後１時半～３時半

講　師　旭川市緑の相談所
相談員　佐藤　文男

定　員　５０名　無　料

自然と植物

スライドを見ながら

日　時　７月９日(日)
午後１時半～３時半

講　師　旭川市緑の相談所
相談員　小島　博昭

定　員　５０名　無　料

親子でつくる押し花絵

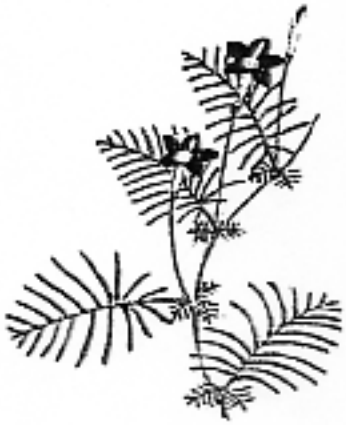
日　時　７月２３日(日)
午後１時半～３時半

講　師　つくしんぼ押し花
加藤　廸子さん

定員　親子３０組　材料費　５００円

持ち物　文ちん、ピンセット、おてふき。

お申し込み・お問い合わせは　旭川市緑の相談所　☎６５－５５５３



ルコウソウ　ヒルガオ科

春まき一年草　　花期　５～１０月

葉は細かく切れ込み、花弁は長い筒状部の先につく。
茎はつるになり、ほかの物に巻き付く。
鉢植えは風通しのよい日当たりに置き、生育が旺盛なので水切れしやすく盛夏は毎日、それ以外は土の表面が乾いたらたっぷり与えます。

ベニバナを巡る話（末摘花）

「ベニバナを作りたいのだけど旭川でも育てられるでしょうか」と相談を受けたことがある。ベニバナはキク科の一年草でアザミに似た花である。旭川でも春に種を蒔くと十分に育だてられる。鑑賞のために育てている方もあるはずだ。

昔、布を赤く染めるのに用いたというのでベニバナという。
古い名前をクレナイ、あるいはスエツムハナ（末摘花）ともいう。
ベニバナの学名はカルタムス・チンクトリウスという。
カルタムスはアラビア語の「染める」という意味のカルトンから、チンクトリウスは染色用という意味だそうだ。
元々ヨーロッパ、インド、中国などで染料、薬用に用いられていたものが日本に入ってきたようだ。
漢の武帝はベニバナを得るために、当時ベニバナの産地であった匈奴の支配地、烟支山（エンジザン）を占領した。そのため匈奴の女性は「一朝にして顔色失った」とある。
紅色の一つをエンジ色（臙脂色）というのはここから由来するという。
ベニバナの紅の色素は、今では布の染色にはほとんど使われていないようだが、口紅、菓子、食料品の着色料として使われている。
そのことよりも種から取る油が健康によいことから、ベニバナ油として市販されていることの方が知られているのではないか。

ベニバナの花は初めは黄色だがあとで赤色に変わる。これを最後に摘み取るので末摘花（スエツムハナ）というそうだが、この名にはなんとなく侘しさを感ずる。
源氏物語五十四帖の六番目に「末摘花」という一帖がある。
源氏は貧しいけれど床しく優しい夕顔との逢瀬に情熱をかたむける。ある夜、前からの情事の相手、六条の御息所（みやすどころ）の嫉妬による怨念に夕顔は息絶える。夕顔を失った源氏は失った源氏は淋しさにある夕暮れ、荒れ果てた邸の姫を訪れる。暗いので顔、姿がよく見えない。翌朝、雪明かりに姫君の顔を見るとなんと不器量なことか。鼻が象のように長くその先が赤い。「なつかしき色ともなしに何にこの　末摘花を袖にふれけむ」（このもしい女でもないのに、どうしてあの鼻の赤い姫に手をふれたものか）とつぶやくのだった。
末摘花の題はこの赤い鼻に由来する。
源氏が交わった多くの女性の中で醜女はこの末摘花だけである。しかし源氏はこの姫の暮らしの面倒をきちんとみたのだった。源氏の優しさである。

現在ベニバナの産地は秋田県だそうだが、先に述べたように旭川でも育てられるので、ベニバナにまつわる事柄を思い浮かべながら花壇に植えてみたいものである。

（文責　村田）

6月7月の園芸作業

春咲き球根類 ～ チュウリップ等

花がらを摘み、葉を大切に扱い球根を太らせます。球根を掘り上げる場合は葉が完全に枯れてから。

花壇、プランターの草花

- 暑さが続くときにはダニの発生に用心しましょう（ダニ剤のニッソラン等散布）
- 雨降り後の湿気の多い時には　病気（ボトリチス等）が蔓延しやすくなります。ダコニール等殺菌剤をときどき散布します。
- 肥料は草取りの時少量（化成肥料指先一つまみ）を２～３回に分けて施します。

花　木 ～ ツツジ、シャクナゲ、ボタン等

- 種を着けないように早めに咲きがらを取ります。混みすぎる新芽は間引きします。
- 肥料を施す場合はこの時株の周囲に化成肥料を少量（６月中旬まで）

鉢物の戸外管理

- 観葉植物　～　葉焼けしないように徐々に馴らしながら戸外に出し育てます。
- クンシラン　～　半日陰で水と肥料を十分に、
- デンドロとシンビジュウム　～　日当たりの良い場所で、水を忘れず、肥料は８月になったら打ち止め。
- シクラメン　～　涼しい場所で肥料をときどき施しながら管理し、秋に植替え
- アマリリス　～　日当たりの良い場所で、肥料を施し、葉を大きく育てます。

果　樹

- 害　虫　～　プラム、ナシ、リンゴの「シンクイムシ」７月に入って１~２回、「ケムシ類」は発見次第直ちに殺虫剤（スミチオン等）。
- 病　気　～　スモモの「フクロミ病」モモ「縮葉病」は見つけ次第摘果、摘葉ダコニール等ときどき散布、（落葉期の石灰硫黄合剤散布が最も有効）

野　菜

- トマト　～わき芽を早めに欠き取る。１段目の実が太りだす頃１回目の追肥。
- キュウリ　～５～６葉までは実も側枝も欠き取る、以後の側枝は２葉残し摘芯。
- ピーマン　～下段の側枝を欠き取る、最初の実は摘果。ナス、ナンバン等も同じ。
- カボチャ　～下段からの側枝２～３本を伸ばし、他の側枝は欠き取る。人工受粉。

♣花づくりは基礎基本を知ることから♣　　part３

前回は土づくりについて紹介しました、

今回は肥料について紹介しましょう。

≪肥料の成分と役割≫

※窒素（N），リン酸（P）、カリ（K）分をバランスよく

生長に欠かせない成分としてN，P，Kの３要素があり、さらにカルシウム（Ｃａ），マグネシウム（Ｍｇ）の５要素が必要です、その他としてマンガン、ホウ素、鉄、銅、亜鉛、モリブデン、イオウなどの微量要素も大切です。

※５要素の役割は

１）Ｎは［葉肥］ともいわれ、葉や体をつくる肥料で、植物体のたんぱく質、葉緑素をつくるもとになります

２）Ｐは［花肥、実肥］ともいわれ、花や果実のつきをよくし、肥大にも役立ち、実際には細胞の核、たんぱくを作り、細胞分裂を盛んにします。

３）Ｋは［根肥］ともいわれ、新芽や根など生長が盛んな部分で細胞の働きを活発にし、耐病、耐寒力を強めます。

４）Ｃａ（石灰）は、細胞をつくる、また新陳代謝でできる有機酸を中和する。植物を丈夫に育てるのに役立つ。

５）Ｍｇは、葉緑素をつくるのに必要。代謝を促進し、たんぱく質や脂肪、リン酸の移動を助ける作用がある。

≪肥料の使い方≫　肥料成分（N,P,K）５つのタイプを知ろう。

１）水平型　（N）－（P）－（K）　どの植物、どの時期にもよい

２）山　型　（P）／（N）＼（K）　草花、花木、鉢花、果菜類に

３）谷　型　（N）＼（K）／（P）＼（K）／（P）　水耕栽培に

４）上がり型　（N）／　室内鉢物、球根、根菜類など

５）下がり型　（N）＼（P）＼（K）　観葉植物、葉菜類など